



A : A 対

基 本

例 文

- ① ^{こども}子供でも、^{おな りょうきん はら}同じ料金を払わなければなりません。
- ② ^{よるおそ}夜遅くても、^お起きていますから、^{でんわ}電話してください。
- ③ ^{やさい きら}野菜が嫌いでも、^た食べたほうがいいですよ。
- ④ ^{あめ ふ}たとえ雨が降っても、^{はな び たいかい ちゅうし}花火大会は中止しません。
- ⑤ A : ^{に ほん じ しん おお}日本は地震が多いですね。
B : ええ。でも、^{たても の じ しん お}この建物は地震が起っても^{だいじょうぶ}大丈夫ですよ。
- ⑥ ^{に ほん かえ}日本へ帰っても、^{まち わす}この町のことを忘れないでください。
- ⑦ ^{かいてん じ かん じ}開店時間の10時になっても、^{みせ あ}店が開きません。^{へん}変ですね。
- ⑧ ^{やくそく じ かん}約束の時間になっても、^{いちろう き}一郎さんは来ませんでした。
- ⑨ A : ^{きのう}昨日もらった^{くすり の}薬を飲んでも、^{ねつ さ}熱が下がらなかったんですが・・・。
B : それじゃ、^{びょういん い}病院へ行ったほうがいいですよ。

- A. S1で表される仮定的な条件に反することを述べるときに使う。(例文①～⑥)
- B. すでに成立しているS1から予想されないことが起こったことを述べるときに使う。
(例文⑦～⑨)
- C. A.の場合、「たとえ」をいっしょに使うことができる。(例文④)

先生へ

ふた いじょう じょうけん の
二つ以上の条件を述べることができる。

例 このお皿は、ぶつけても、落としても、割れません。

「ても」と「が(接続)」(p.72)の違い。

	S1てもS2	S1がS2
はな て かてい S1が話し手の仮定したこと		×
じっさい S1が実際にあったこと、したこと		

ぶん あらわ いみ かんけい ちゅうい
「たら」文が表す意味との関係に注意すること。

例 町の半分以上の人が反対したら、工事を中止します。

町の半分以上の人が反対しても、工事を中止しません。

A. の用法から先に練習したほうが理解しやすい。

「のに」(p.242)との用法の違いに注意すること。

【関連項目】

- 活-01 Vて形
助-16 が(接続)
助-32 のに
文-57 たら

【「れんしゅう編」の練習】

- 15-3 ここはどうですか